研修報告【介護人材確保・定着支援・生産性向上セミナー】

～利用者目線にたった目指すべき介護とは？～

講師　厚生労働省老健局老人保健課　課長補佐　佐藤秀之氏
有限会社元気の素　介護総合研究所元気の素　代表　上野文規氏

講師の上野氏が話された「農業・子育て・介護」この三つは人間力が高くなければできない仕事。一度も同じことが起こらない。それに対して繰り返し向きあっていくからだそうです。これを聞いて、介護の仕事をこんな風に言い表してもらえることに驚きを覚えつつ、背筋が伸びる気持ちになりました。特別養護老人ホーム花みずきの国清浩史氏の講演にあった、私たちの目指すべきは「魅力ある職場づくり」より「魅力ある介護づくり」だそうです。そして、利用者さんの生活づくりこそ介護の醍醐味とお話されました。個人的にはそういったことが実現できる職場環境であることが前提と思うのですが、業務をこなすことに終始している毎日の自分にとって忘れかけていた部分をつかれたようでした。もちろん、お世話や利用者さんが難しい部分を介助することも大切な役割です。更に、介護のプロとしてだからできる視点や感性やアプローチ力も必要で、求められる事なんだという事を再認識しました。そのためには余裕をどうやって持つか、ということが大切なのだそうです。人手不足だったり、職場環境等色々な問題があり、すぐには解決しないことが多い中で、一人一人が自分自身の心の余裕やゆとりを持てるようありたいし、それが介護の仕事において伸びしろにもなるのではないかなと感じました。

報告者　小滝則子（感染症対策委員会委員長）

褥瘡防止委員会：園内研修

11月の委員会は、講師に訪問看護リハビリステーションひなた庚午理学療法士　梶原大輔先生をお招きし、シーティングを中心に勉強会を行いました。実際に日ごろの介助にて課題としていたＫさんには、一緒に参加していただき、お互いに楽で安全な移乗方法を指導いただきました。Ｆさん、Ｔさんについては、事前にシーティングの写真を見ていただき、良い点、悪い点、改善点のレクチャーをしていただきました。印象的だったのは、「和光園のシーティングは120点です！」「70点くらいにしていきましょう」のコメントと、その理由でした。100点満点を続けているとしんどい。ずっと頑張っている感じ。自分事として考えて合点がいきました。
また移乗ロボＨＵＧについて、使用についての線引きをお聞きできました。梶原先生からいただいた資料を見直しながら、日々のケアに活かしていきたいと思います。

褥瘡防止委員会委員長　高宮絵美

現場レベルでの線引きの目安

判断のポイント
①HUGの動作中に「本人が脱力しすぎないか？」
②「一緒に立とう」と声掛けに反応があるか？
③移乗時に両膝が支えられればOK
④逆に「吊り上げ型（リフト）」が安全な方はHUG不適

現場での目安
①体が完全に預けきりになる方は×
②顔を上げる・うなずく・力を入れる反応があれば〇
③膝折れを防げる程度なら使用可
④HUGは介助リフトと違い、能動動作が前提

研修報告『第８回　ひろしまケアコンテスト』

先月号で写真にて紹介したケアコンテストを観覧しての報告です。
今回ケアコンテストを見学して、競技に参加された方々は普段の忙しい業務の合間にコンテストに向けて日々試行錯誤を繰り返しながら努力されたことと思います。今の自分では到底できないことですし、頭が下がる思いです。ただ、今回競技を見学していて「自分だったらこうしたい」「ここではこういう声かけはどうだろうか」と色々考えたり、シミュレーションしたりできた事は介護士として「良い気分転換」ができた気がしています。同じ業務を繰り返す中で、あまり考えることなく淡々と仕事をしている感覚がありましたが、他の施設の介護福祉士の方の頑張る姿や（特に外国籍の方）、多種多様な介助方法を見る事ができたのは本当に良い刺激になりました。この気持ちと感覚を忘れずに、今後の介護士としての仕事に活かしていきたいです。

高宮絵美

法人スタッフクリスマス会2025.12.6

幹事をして下さったデイサービススタッフさん♪

あとがき
６年ぶりに、法人交流会を開催しました。（写真上）初めて素顔を見るスタッフも多く、また数年ぶりのマスクを外しての交流に緊張感もありましたが「やっとちゃんと会えた気がする！」と変な感動を覚えました。皆の笑顔で免疫UPできました。

竹

研修報告　広島県社会福祉大会記念講演

「自分らしく生きる
～夢に向かって私はあきらめない～」

講師　ネイルルーム「ＬａＬａ・Ｕａ」
代表　中野由佳氏

二十五歳の時にネイルの世界に入りその後世界屈指のネイリストとなるも、２０１６年３月不慮の事故により頸椎損傷し、胸から下が麻痺となり車いす生活になった中野氏。賢明なリハビリにより、２０１８年ネイルルームをオープン。結婚、出産を経て現在は一児の子育て中とのこと。
事故前の活躍されていた頃の事、事故後の状況や心境を赤裸々に話され、やさしく丁寧な語りの中に芯の強さポジティブな印象を持ち、話に引き込まれました。病院のベッドで目覚めた時「病気だから治るよ」と前向きに考えていた。体が動かない現実を知り絶望を感じたが、母親からは「あなたは不憫かもしれないけど不幸ではない」と言われたり、友人からはすっぴんの顔を見て「眉毛でも書こうよ」と言ってもらい握力の無い震える手で眉をかき、不揃いの眉に皆で笑いあえた事で、ネイリスト復活の決意目標ができたとのこと。
転んでは泣いて。と色々な辛い事があったが、根っからのポジティブな性格と、様々な場面でのたくさんの人との出会いがあり前向きに生きることに繋がった。〇〇年までに〇〇をする！と目標を立ててそれに向かって日々努力をされ、その生きる姿勢や中野氏の人柄に自然に人を引き寄せ素敵な人との出会いに繋がるのだろうなと感じました。そして、自分を受け入れ自分を信じる事が大切だと感じました。
今の一番の生きがいは息子さんとのこと。一番のリハビリは子育てと言われていました。親子で大好きなアンパンの歌「何のために生まれて、何をして喜ぶ」のフレーズから、今は息子の笑顔のために生きている。目標は息子と手を繋いで歩くこと。そしてもう一つの夢はこの講義の終わりに歩いて退場すること。と締めくくられ、アンパンマンマーチが流れる中、車いすから歩行器へ。自然に会場から拍手が湧き、会場全てが一体となり、あたたかい雰囲気と中野氏の強さに、自然と涙が出ました。今後の人生においてとても貴重な話が聞けたと同時に功労の表彰（広島県社会福祉協議会会長表彰）を頂けたことに感謝いたします。

報告者　生活相談員　山本理香